

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800072		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	ファミリア小坂(グループホーム)		
所在地	岐阜県下呂市小坂町坂下716番地1		
自己評価作成日	平成28年2月2日	評価結果市町村受理日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800072-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2192800072-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念に基づき、地域に根ざす優しさ、安らぎ、信頼をモットーに職員一人一人が意識を持って介護サービスに努めています。掃除のお手伝いや、おやつ作り等を一緒に行い利用者様の残された力が、発揮できるよう支援していきます。また、住み慣れた地域の恵まれた社会資源と自然環境の中で、四季折々の行事を行い生き生きとした馴染みある生活が送れるよう努力します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域住民やボランティア団体と協力関係を築き、地域に開かれた事業運営を実践している。法人合同のイベントでは、家族や地域住民を招いて、盛大に行っている。利用者には、生き生きと、その人らしい生活が送れるように、残された能力を発揮できるように支えている。また、回想療法と、レクリエーションを充実させ、さらに、住職の法話で、利用者の心を和ませている。口腔ケアも徹底し、嚥下力を向上させ、食べる意欲につなげている。職員採用は、地元住民を対象に、口コミ方式を取り、未経験者には、介護実践研修を受講してもらい、働き甲斐のある職場環境を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に介護サービスが提供できるように、職員会議やミーティング、また名札に記入し各自確認を行っている。	理念は「地域に根ざす、優しさ・安らぎ・信頼」としている。職員の名札に記載しており、職員会議で支援方針を共有している。利用者との信頼を築き、地域の中で、安らぎを感じ、その人らしい暮らしの支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際には、地域のボランティアの方々に訪問していただき、地域の方々と共に楽しませて頂いている。	広報誌「おたっしや倶楽部」を毎月発行し、地域に配布をしている。地域のボランティアが、日常的に訪れ、多様な芸能を披露している、地元の文化祭や福祉フェスタには、利用者の作品を出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の構成委員を通じて、地域での困り事等の相談を受け、専門職としてのアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で提案いただいた件についてすぐに実施している。当施設の情報誌の地元地域への回覧・ボランティアグループの紹介や行事への参加をして頂いている。	会議では、事業所の現状と行事の実績、計画を報告している。出席者と、将来的にも安心できる運営や感染症対策、利用料金、認知症の理解などで意見を交わし、事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係を築くため、日頃から行政と連絡を取り合うよう努めている。	行政と、提出書類の書式、代行申請や住所地特例、マイナンバー制度、介護マークの活用、認知症サポーター養成講座などで情報を交換している。困難事例は、その都度、役所へ出向き、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の勉強会や、のミーティングなどで取り上げ身体拘束をしない介護を皆で心掛けている。	職員は、身体拘束の弊害を認識し、拘束をしないケアを実践している。心理的にも抑圧感や威圧感を与えないように周知・徹底をしている。利用者の情緒を安定させ、穏やかな生活環境を築いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や勉強会において虐待防止を意識するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用者が入居されていますが、職員でこの制度を熟知出来ていないのが現状です。該当ケースが発生した場合はご家族に社協、司法書士、社会福祉士等に仲介しスムーズに対応できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設の方針、内容などについて十分に説明し、納得していただいた上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からコミュニケーションを意識し、信頼関係の構築を心掛けている。また、来訪された家族とのコミュニケーションを大切にしている。	家族の来訪時に、話し合いの場を設けている。家族へ送るホーム便りには、手書きで、近況報告を行っている。家族からは、安心な暮らしと、健康に気をつけてほしいとの希望があり、運営に反映させている。	さらに、家族の希望や意向が把握できるように、アンケート調査の試みや工夫等に期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議などで職員から出た意見、問題を皆で話し合い、方針を決めている。	定例の職員会議で、意見や提案を話し合い、議事録に明記をしている。事故やヒアリハット対策、誤薬の防止、イベントの企画などを提案し、それらを運営やサービスの改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や勤務態度を把握し、評価している。研修などにも参加しやすいようシフトなども考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を設けて職員のスキルアップを目指している。職員自身にも講師をしてもらい、自己学習の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同法人の3事業所の管理者・主任級職員で定期的に勉強会を実施している。また、近隣の療養病床兼老健施設へは訪問調査を交互に実施しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の本人の情報を家族より聴取し、入所後の環境作りに努め、本人の要望や思いを引き出すよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談されるご家族の思いを傾聴し困っている事や不安に思っている事、また要望等をしっかり把握して信頼関係がもてるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始の相談を受けてから、本人や家族から十分なアセスメントを行い、何が必要か、適切な支援ができるように心掛け、サービスに反映するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの人間性や性格等に配慮しながら職員は利用者と同じ目線・立場で介護していけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向や思いについてご家族に意見を伺う事で、ご家族も共に支援しているという関係を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みのある場所にドライブに行く等外出支援を行っている。面接や訪問時はいつでも来ていただけるよう明るい雰囲気作りに努めている。	イベントは、併設事業所と合同で行い、利用者の知り合いと馴染みの関係を継続している。馴染みの理・美容師も訪れている。恒例の祭りや行事に出かけたり、利用者個々の思い出の景勝地へは、ドライブを兼ねて訪ねている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、時には職員が間に入り良好な関係が保てるよう配慮している。行事などでは各フロアの利用者同士が触れ合う場を設けて交流できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ入所された時など、サマリーなど情報提供を行い、ご本人の介護に役立つよう配慮している。利用者の環境変化にも対応でき、リピート可能なサービスをアレンジして提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの訴えや意向に耳を傾け把握に努めている。本人の意向に沿えるようにカンファレンスで検討し、対応している。	職員は、日常生活の場面で、表情や言動を観察したり、耳を傾けながら、利用者の思いや意向を把握している。その人の生活歴にも配慮をしながら、自分らしく、生きがいのある暮らし方ができるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやサマリーを活用したり、ご家族やご近隣の面会時にお話を伺ったりしてこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りノートを活用し、日々の過ごし方や心身の状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの要望や職員からの意見を元に介護計画を作成しているカンファレンス実施後はケアの在り方を統一出来るように努めている。	介護計画は、本人・家族の意向を確認し、サービス担当者会議を経て作成をしている。欠席家族からは、事前に意見書を提出してもらっている。利用者の心身が安定し、自立した生活が継続できるよう、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他に介護日誌や特記録に記入する事で職員間で情報を共有したり、ケアの実施や介護計画の見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望を尊重し、状況に応じた柔軟な支援を行えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、美容院・床屋やお寺の住職による講話を催している。地域のボランティアに依頼し、色々な催し物を楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、往診を行って頂いている。また常時体調の変化に合わせて、状況に合った医療を提供できるよう努めている。	法人の医師による、定期の診察を利用者全員が受けている。特定疾患のある利用者は、個別の医療機関で治療を受けている。急変時は、看護師と協力医が、密に連絡を取り、適切な医療が受けられるように支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、利用者様のバイタルを測定し、体調の変化や職員の気づきを看護師に正確に報告し適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換等は出来るだけ早期にサマリーや電話等で連絡を取り合っている。そしてその情報をスタッフ間で共有し、早めに準備を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やその時の状況に応じて意向調査を行い、家族との意向確認を行なっている。看取りの時期には、ご家族と十分話し合い家族が望まれる生活が出来るように支援している。	重度化対応は、所内で可能な医療行為までとしている。医療的治療を行わない終末期は、家族と関係者で話し合い、その結果を尊重し、最期まで生活ができるように、チームでの対応力を整え、終末支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議などで急変時の対応などを学習している。また消防署の方に来ていただき心肺蘇生の方法等の講習会を行っていただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。運営推進会議の地元委員を窓口として協力をお願いをしている。また、周辺での災害時は避難所としても利用していただくよう承諾している。	災害訓練は定期的に行い、所定の訓練項目に沿って実施をしている。近くのコンビニ店や地域との協力関係を築いている。建物は、耐震構造で、地域の避難所として、地域住民や関係者に周知をしている。	地震や夜間を想定した災害訓練や、行動指針をマニュアル化して、職員の実践力につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の介護の中で一人ひとりの人格を大切にしたい接し方を心掛けている。 言葉遣いなど職員会議で話し合い確認している。	利用者一人ひとりの人格の尊重は、普段から基本姿勢として取り組んでいる。職員が話すときは、分かりやすく、優しく、馴染みのある言葉で話しかけ、利用者の誇りを損ねたり、不安を与えないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、少しでも本人様の希望が引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援を心掛けている。利用者様の体調や状態などを考慮するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備を利用者と共におこなったり、外出して好みの衣類の購入などの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど出来る範囲で手伝って頂いている。月1回の手作りおやつや旬の食事作り等一緒に行っている。	母体法人は同じ建物に三つの事業を運営しており、一括して調理部門が食事づくりを担当している。利用者は、配膳や片付けなどを手伝い、食事の楽しさと美味しさを味わっている。食前の嚥下体操と定期的に歯科衛生士が訪れ、食べる意欲を引き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を個人記録やバイタル表に記録し、把握している。個々の嚥下状態や義歯の状態などに応じて、食事形態を工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを行っている。自分で出来る方も声掛けや見守りを行ったり介助の必要な方は職員が行っている。また、歯科衛生士の方に口腔内のチェックを行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェックし、個別に必要な支援を行い、一人ひとりの自立に向けての介助をしている。	立位が困難に利用者にも個々の立位を支え、トイレへ誘導し、排泄の自立につなげている。本人の、訴えや行動で察知し、失敗を減らしている。夜間は、個々にあったパッドを選択し、尿意があれば、利用者自身が呼び出しボタンで知らせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄パターンを把握しながら看護師の指示に基づいて内服薬及び座薬を使用している。水分摂取やヤクルト及び牛乳などの提供を行い便秘予防への対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせて菖蒲湯・ゆず・かりん風呂につかって頂き、楽しんで頂いている。	入浴は、本人の希望に柔軟に応じている。脱衣室のトイレをカーテンで仕切り、羞恥心や負担感に配慮をしている。状態に応じて、個浴と機械浴を選択し、習慣やこだわりに沿って、心地よい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の清掃等も利用者に合わせ、日中でも休みたいときに休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬忘れや誤飲がないよう、職員会議で話し合ったり、スタッフ同士確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来ることを職員と一緒にやっている。カラオケや散歩など本人の意向に沿って、楽しみ事が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に出来ることを職員と一緒にやっている。カラオケや散歩など本人の意向に沿って、楽しみ事が出来るように支援している。	事業所のすぐ横に、広い庭と日常の散歩コースがある。家族の協力を得て、外食やドライブ、法事、一時帰宅などで外出をしている。年間計画では、新緑や紅葉狩り、菖蒲園、名勝地などへ出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出にて喫茶店で好きな物を頼んだり、使えるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった際に電話を使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・安全に心掛け、四季を感じて頂けるよう、花や壁絵を替えたりして、明るい空間作りを心がけている。	共用の間は、イベント会場にも使える広さである。要所に観葉植物や季節の花、雛壇、手づくり作品を飾っている。トイレや居室のドアは、機能的な引き戸式の造りである。大型画面のテレビと、ゆとりのあるソファを配置し、居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにて横になって休んで頂けるようにしている。また、座席は気の合う利用者様同士が座って頂けるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より使い慣れた物を持ち込んで頂いたり、写真や絵など飾るなどして環境にも工夫をしている。	居室には、収納棚を備え、使い慣れた椅子や机、衣もの掛け、テレビなどがある。空気清浄機や歩行器、仏壇も持ち込んでいる。家族の写真や絵などを飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場面に応じ、手すりを設け安全かつ安心して行動して頂けるようにしている。		